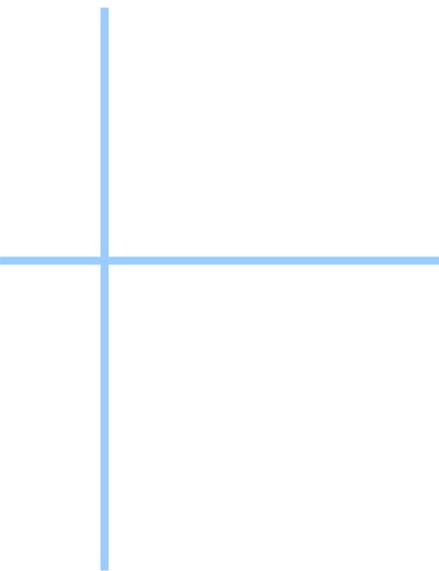




**平成29年度
市民と行政・市民と市民のパートナーシップ
年次報告**



下関市

目 次

はじめに	1
1 市民参画の対象とした施策及び市民参画の方法	2

市民と行政のパートナーシップ

2 情報の提供と共有を行った施策	4
3 実施機関の施策の推進に関して市民から提出された意見の件数及び回答状況	5
4 条例第 14 条に規定する附属機関等における委員構成の状況	9

市民と市民のパートナーシップ

5 市民活動を促進するための環境整備として実施された施策	13
6 市民活動団体と協働を行った施策及び協働の方法	14
7 市内の市民活動の状況に関する事項	15

資料 1 しものせき市民活動センター 市民活動取材票（平成 29 年度）

資料 2 平成 29 年度市民と行政・市民と市民のパートナーシップ年次報告の評価について（答申）

はじめに

本市では、市民と行政、市民と市民が対等の立場で、それぞれの英知を集め実践力をつなぎあい「協働」する「市民参画」という社会システムを築くため、平成17年2月に「下関市市民協働参画条例」を施行し各種施策を推進しています。

本年次報告は、この下関市市民協働参画条例第16条の規定に基づく報告として、1年間に実施した市民協働参画関連施策の調査結果を基に作成し、公表するものです。

本市の平成29年度の市民参画及び市民活動の状況を「市民と行政・市民と市民のパートナーシップ年次報告」として、ここに報告します。

【参考】年次報告（条例第16条）

第16条 市長は、毎年、市民参画及び市民活動の状況について公表するものとする。

【参考】年次報告（条例施行規則第5条）

第5条 条例第16条の規定による年次報告に記載する事項は、原則として次のとおりとする。

- (1) 市民参画の対象とした施策及び市民参画の方法
 - (2) 情報の提供と共有を行った施策
 - (3) 実施機関の施策の推進に関して市民から提出された意見の件数及び回答状況
 - (4) 条例第14条に規定する附属機関等における委員構成の状況
 - (5) 市民活動を促進するための環境整備として実施された施策
 - (6) 市民活動団体と協働を行った施策及び協働の方法
 - (7) 市内の市民活動の状況に関する事項
- 2 前項の年次報告は、年度終了後、できる限り早い時期に行うものとする。

以下、本年次報告では、下関市市民協働参画条例を「参画条例」、下関市市民協働参画条例施行規則を「施行規則」という。

1 市民参画の対象とした施策及び市民参画の方法

(1) 市民協働参画関連施策実施状況

下関市市民協働参画実施機関である課所室等に対し調査を実施した結果、66の課所室等において該当があり、実施事務事業数（予算小事業単位）は199事業、実施施策数は505施策でした。

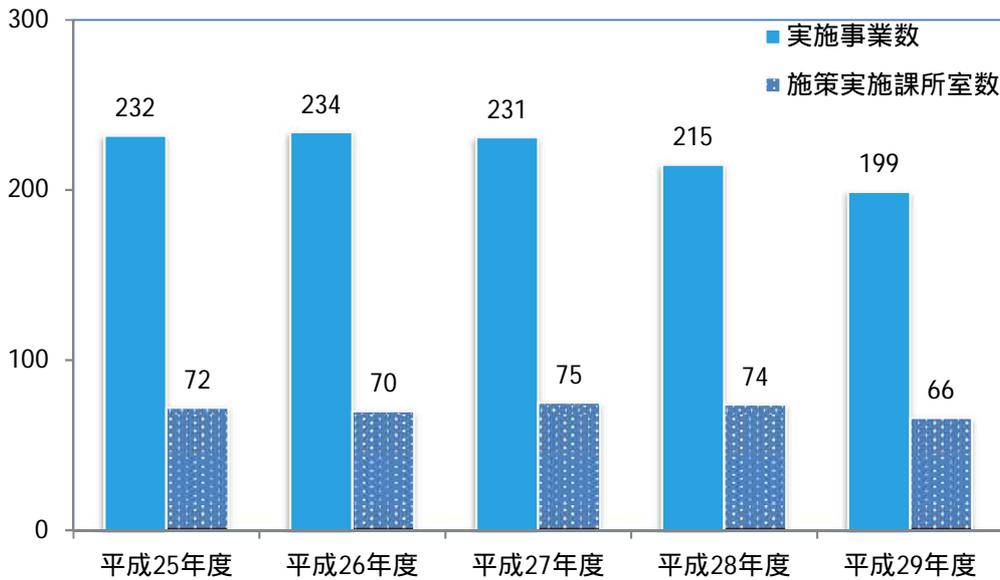


図1 実施事業数及び施策実施課所室数の推移

項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
実施施策数	507	498	499	494	505

市民活動団体等への事業後援に係るものを除く

表1 実施施策数の推移

[参考] 実施機関（条例第2条第7号）

第2条 この条例において次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (7) 実施機関 市長、教育委員会、選挙管理委員会、公平委員会、監査委員、農業委員会、固定資産評価審査委員会、公営企業管理者及び消防長をいう。

(2) 市民参画の方法

本年次報告における市民参画の方法については、参画条例第 9 条に規定するもののほか、一般的によく用いられる以下の分類により整理しています。

< 事業の分類 >

- 情報提供 : 主として市民に市の情報を提供するもの
- 意見収集 : 主として市民からの意見を市が収集するもの
- 企画・実施段階 : 施策の実施時において市民と協働するもの
- 自主的活動支援 : 市民の公益的活動を支援し、市全体の公益の増進を図るもの

< 方法の分類 >

	広く市民を対象	一部の市民を対象
情報提供	広報誌等の活用 報道機関の活用 インターネットの活用	説明会の開催
	シンポジウム・フォーラム等の開催 学習会・研究会の開催	
意見収集	パブリックコメント アンケート調査の実施 市民提案・企画・論文等の募集 広聴会の開催	公聴会の開催 ヒアリングの実施
企画・実施段階	社会実験の実施 ワークショップの開催 審議会・委員会等の開催 実行委員会や運営協議会等の設置 事業の市民活動団体等への委託	
自主的活動支援	専門家等の派遣（出前講座） ボランティア・NPOへの支援	

【参考】市民参画の方法（条例第 9 条）

第 9 条 実施機関は、説明会の開催、アンケートの実施、ワークショップの開催、審議会の設置、パブリックコメントの実施等の方法により効果的な市民参画の実現に努めるものとする。

2 情報の提供と共有を行った施策

情報の提供と共有は市民参画の前提となる考え方であり、まちづくりに関して市民と行政が有している情報を互いに提供し、共有することが求められています。ここでは事業を実施するにあたって、行政から市民へ情報提供を行った施策のうち、下記の項目について集計しました。

表2 情報の提供と共有を行った施策数の推移

項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
説明会を開催したもの	9	16	11	16	26
シンポジウム・フォーラム等を開催したもの	7	6	6	5	4
ワークショップを開催したもの	4	7	9	7	8
学習会・研究会を開催したもの	79	70	70	78	86
広報誌等・報道機関・インターネットの活用	58	52	50	52	52
その他	10	15	12	17	16
合計	167	166	158	175	192

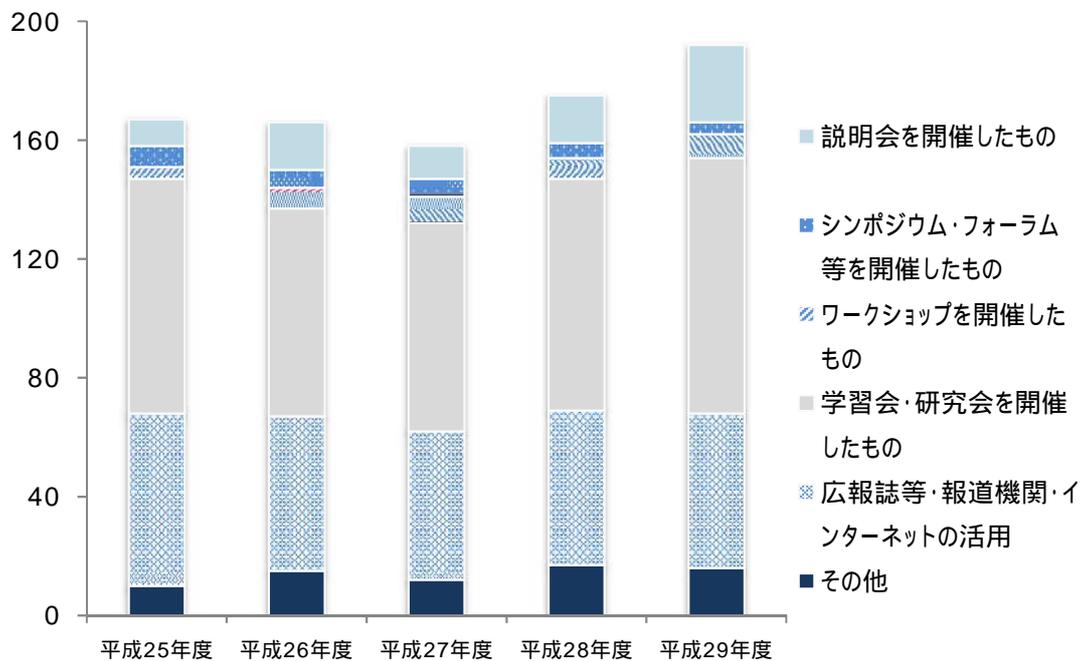


図2 情報の提供と共有を行った施策数の推移

3 実施機関の施策の推進に関して市民から提出された意見の件数及び回答状況

施策を実施するにあたって、内容や段階に応じて効果的な市民参画が可能となるような方法を採用することが重要です。その一段階として施策へ反映させるために市民の意見を求めたものを集計しました。

表3 意見の収集方法とその施策数の推移

項 目	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
パブリックコメント	6	14	14	4	11
アンケート	45	45	41	42	45
市民提案・企画・論文等の公募	4	1	1	1	1
公聴会・広聴会・ヒアリング等	7	6	0	1	2
市長へのはがき・Eメール等	2	2	2	2	2
その他	8	6	5	3	3
合 計	72	74	63	53	64

【参考】パブリックコメント

下関市市民協働参画条例において例示されている市民参画の手法の1つであり、市の基本的な施策等を決定する過程において、その施策等の案を広く市民に公表し、これに対して市民から提出された意見等の概要及びこれに対する市の考え方等を公表するとともに、その市民から提出された意見等を考慮して当該施策等の案の決定を行う一連の意見募集に関する手続。

(1) パブリックコメントを実施した施策について

パブリックコメントを実施した施策は 11 施策 で、意見の応募総数は 169 件 でした(表4)。

表4 パブリックコメントを行った施策

具体的事業名または目的【担当課】	実施期間	応募 総数	意見の反映	公表 状況
下関市土砂災害ハザードマップ作成業務 【防災安全課】	H29.11.27～ H29.12.22	2 件	B:1 E:1	公表
第3期下関市地域福祉計画策定 【福祉政策課】	H29.12.20～ H30.1.18	1 件	B:1	公表
第七次いきいきシルバープラン策定 【長寿支援課】	H29.12.20～ H30.1.8	7 件	B:7	公表
下関市障害者計画・下関市障害福祉計画 (第5期)・下関市障害児福祉計画(第 1期)の策定【障害者支援課】	H29.12.20～ H30.1.18	18 件	C:8 D:10	公表
第3次下関市食育推進計画策定 【保健総務課】	H29.12.14～ H30.1.12	0 件		公表
平成30年度食品衛生監視指導計画の策 定【生活衛生課】	H30.2.1～ H30.2.28	0 件		公表
一般廃棄物処理基本計画策定業務 【クリーン推進課】	H29.12.11～ H30.1.12	25 件	A:2 B:1 C:3 D:18 E:1	公表
農業振興地域整備促進業務 【農業振興課】	H29.11.6～ H29.12.5	1 件	D:1	公表
下関市公営住宅等長寿命化計画(素案) 【住宅政策課】	H30.1.9～ H30.2.8	4 件	B:3 C:1	公表
下関市総合交通戦略の策定 【交通対策課】	H30.1.10～ H30.2.9	32 件	A:1 B:6 C:16 E:6 F:3	公表
下関市立図書館基本計画策定業務 【図書館政策課】	H29.10.16～ H29.11.14	79 件	A:6 B:15 C:6 D:13 E:23 F:16	公表

意見の反映区分

A：意見を踏まえて施策を補足修正、又は追加したもの 9 件

B：施策実施にあたって考慮すべき事柄として参考とするもの 34 件

C：既に対応済みのもの 34 件

D：反映が困難なもの 42 件

E：情報、感想、質問等に対応の対象とならないもの 31 件

F：意見提出の定めに違反して提出されたもので回答を公表しないもの 19 件

(2) アンケートを実施した施策について

アンケートを実施した施策は 45 施策で、その回収率は 53.1%でした。

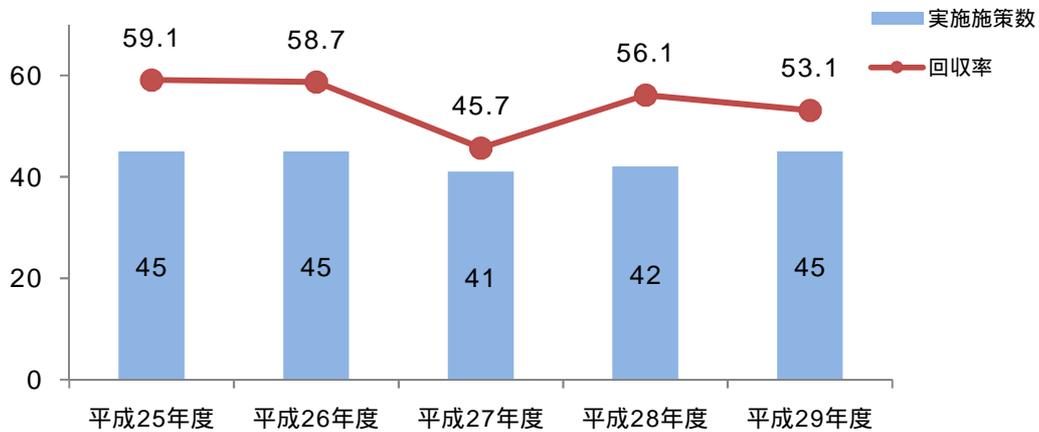


図3 アンケートを実施した施策数とその回収率の推移

回収率については、実施施策のうち配布数と回収数が把握できるもので算出

(3) 市民提案・企画・論文等の公募を行った施策について

市民提案・企画・論文等の公募を行った施策は 1 施策でした (表5)。

表5 市民提案・企画・論文等の公募を行った施策

具体的事業名または目的【担当課】	概要	意見等 応募者数	公表状況
下関市景観賞の募集 【都市計画課】	建築の保存と活用部門（原則築造5年以上）、景観を守り育てる活動部門の実施	15件	公表

(4) 公聴会・広聴会・ヒアリング等を行った施策について

公聴会・広聴会・ヒアリング等を行った施策は 2 施策でした (表6)。

表6 公聴会・広聴会・ヒアリング等を行った施策

具体的事業名または目的【担当課】	概要	参加者数	公表状況
下関市土砂災害ハザードマップ作成業務 【防災安全課】	土砂災害ハザードマップ素案に対し、まちづくり協議会役員や自治会役員へ意見収集	350人	非公表
第3期下関市地域福祉計画策定 【福祉政策課】	地域福祉計画策定に関する意見収集のための地区懇話会実施	529人	公表

(5) 市長へのはがき・Eメール等

表7 内容別受付件数<広報広聴課受付分>

内 容	はがき	Eメール	計
新規提言等	13	63	76
苦情・要望等	142	217	359
照会・質問	31	29	60
その他	28	65	93
合 計	214	374	588

表8 内容別受付件数<上下水道局受付分>

内 容	電話	文書	ファクシミリ・ 電子メール	来局	その他	計
苦情・要望等	5	0	0	2	2	9
問合せ	1	0	0	0	0	1
合 計	6	0	0	2	2	10

4 条例第 14 条に規定する附属機関等における委員構成の状況

附属機関等とは、地方自治法第 138 条の 4 第 3 項の規定に基づき設置する審議会その他の附属機関及び調停、審査、諮問、調査等を目的としない行政運営上の意見の聴取、懇談等を行うため、要綱等の定めるところにより設置される組織のことをいいます。

参画条例第 14 条では、学識経験者や関係者、公募市民等で構成する附属機関等は、行政プロセスにおいて重要な役割を担っており、審議や答申等を通じて市民参画を実現する重要な方法の一つとして位置づけています。

本項目では、附属機関等を市民参画の視点からより有効に機能させるため、委員選任にあたっての留意事項である、「委員の公募状況」「年齢構成」「男女比率」「在期数」「兼職状況」について調査しました。

また、市民参画の対象として相応しい附属機関等を明らかにするために、市職員のみで構成されるもの、市内部の事務処理等の為に設置されているもの、休止中のものを除いています。

【参考】条例第 14 条（附属機関等の委員）

第 14 条 実施機関は、附属機関等（地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 138 条の 4 第 3 項の規定に基づき設置する審議会その他の附属機関及び調停、審査、諮問、調査等を目的としない行政運営上の意見の聴取、懇談等を行うため、要綱等の定めるところにより設置される組織をいう。以下同じ。）の委員を委嘱し、又は任命しようとするときは、一部又は全部の委員を公募により選出された委員（以下「公募委員」という。）とするとともに、男女比率、年齢構成、在期数及び他の附属機関等の委員との兼職状況等を勘案して選考するものとする。

(1) 委員の公募状況

平成29年度における調査対象附属機関等は75機関あり、うち公募委員を含むものは13機関（うち4機関が構成員の変更無）で、公募の実施率は12.0%でした。

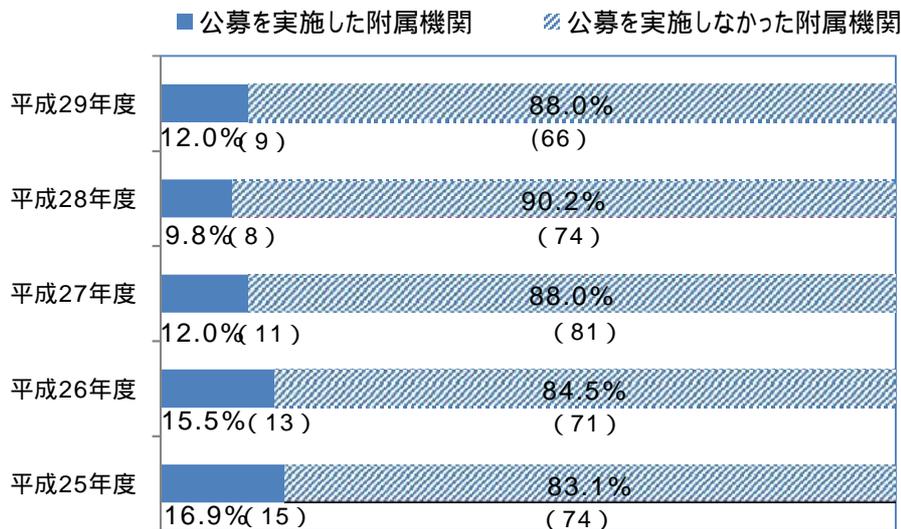


図4 附属機関委員の公募の状況

() 数は附属機関数

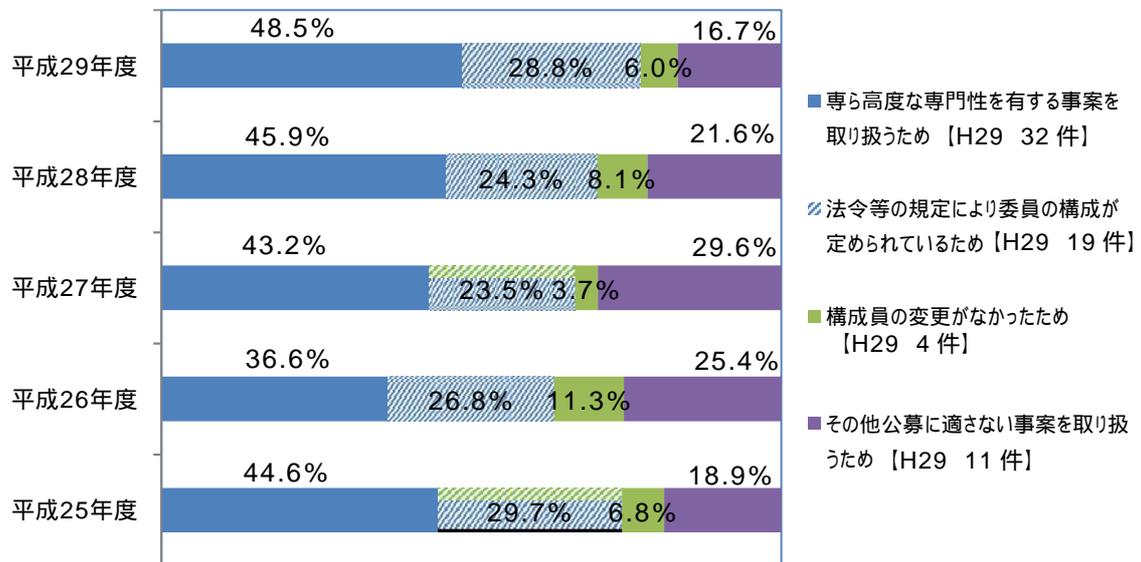


図5 委員の公募を実施しなかった理由の割合【附属機関数】

(2) 委員の年齢構成

委員の年齢構成は 30歳代以下が 3.5%、40歳から50歳代が 44.3%、60歳代以上が 52.1% でした。

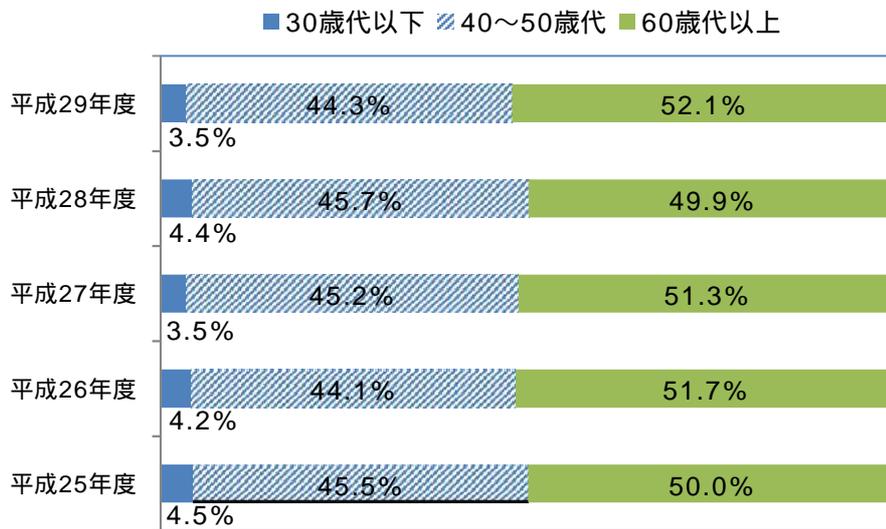


図6 委員の年齢構成

委員の年齢構成を把握している機関のみで算出したもの

(3) 委員の男女比率

全委員に対する比率は、男性が 72.1%、女性が 27.9%でした。

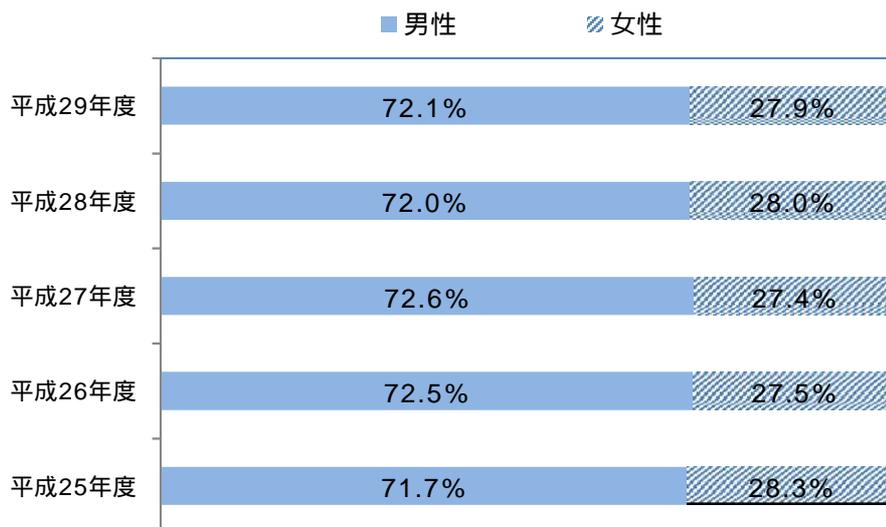


図7 委員の男女比率

(4) 委員の兼職状況

団体推薦を実施した附属機関は 45 機関で、全体の 60.0%でした。

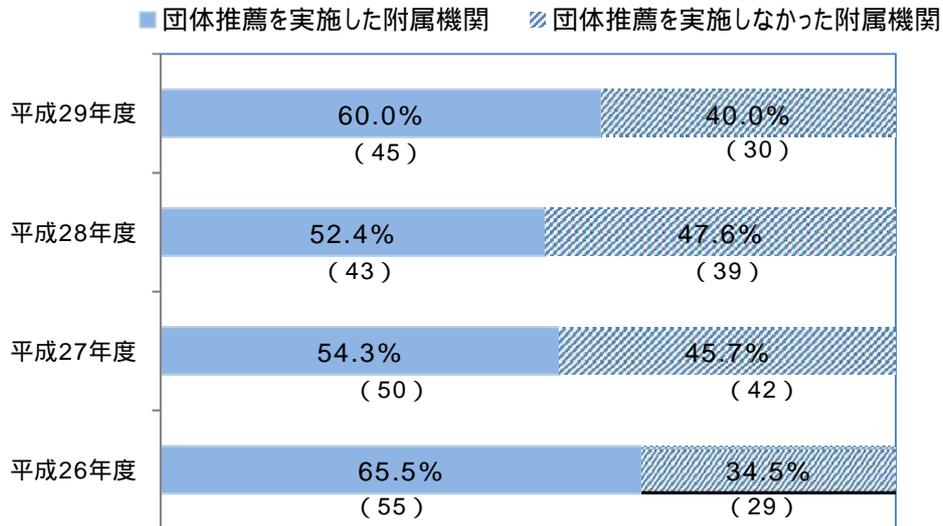


図8 団体推薦を実施する附属機関の割合

() 数は附属機関数

(5) 委員の在期数

在期数3期以上の委員を含んで構成される附属機関は 59 機関で全体の 78.6%でした。在期数3期以上の委員は 503 人で、全委員数の 38.2% (昨年度 35.8%) を占めています。

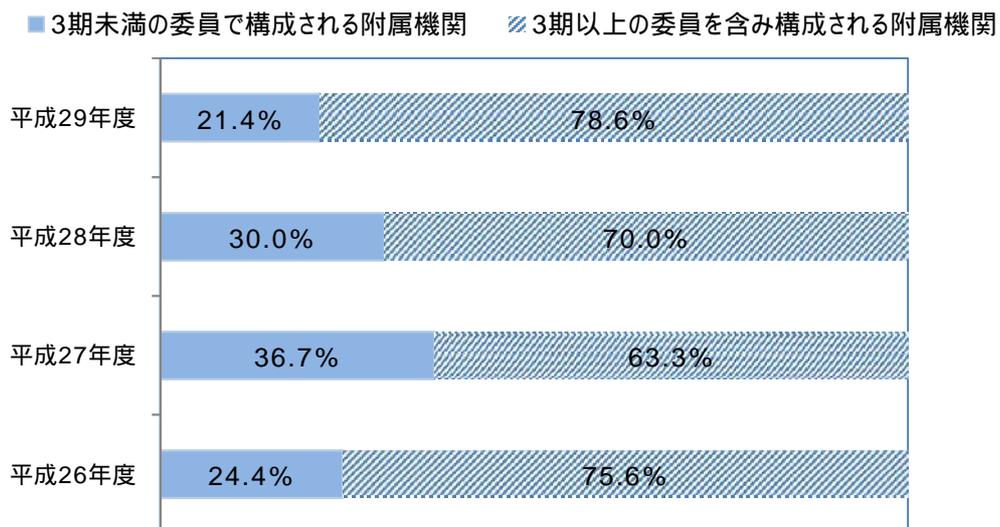


図9 委員の在期数【附属機関数】

全委員が充て職である附属機関を除き算出したもの

5 市民活動を促進するための環境整備として実施された施策

協働のまちづくりを推進するためには、まちづくりのパートナーである市民及び市民活動団体に対する支援策が必要となります。ここでは、市民活動に関する情報提供、市民活動団体同士のネットワーク化の促進、補助金等の助成制度をはじめとする市民活動を促進するための環境整備として実施された施策を集計しました。

表9 市民活動を促進するための環境整備として実施された施策数の推移

項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
情報の収集及び提供	6	5	8	8	13
活動の場の提供	26	24	31	30	22
ネットワーク化の促進	4	4	5	5	6
助成制度の実施	73	77	74	70	66
その他	4	5	6	6	6
合計	113	115	124	119	113

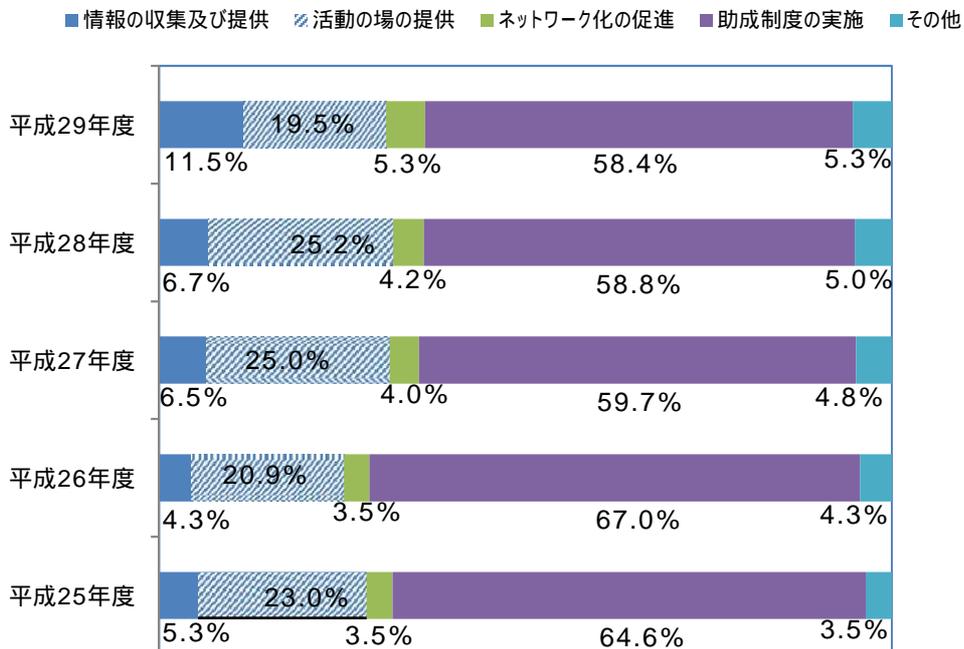


図10 市民活動を促進するための環境整備として実施された施策の割合の推移

6 市民活動団体と協働を行った施策及び協働の方法

協働のまちづくりを推進するためには、市民と行政それぞれが、その特性や役割を認識し、まちづくりを進めていくことが重要です。ここでは、市民と市民のパートナーシップ、市民活動団体との協働を進めるために行った施策を集計しました。

表 10 市民活動団体と協働を行った施策数の推移

項 目	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
市民活動団体へ指定管理や委託を行った施策（契約を締結するもの）	31	27	27	28	27
市民活動団体等と協力して行った施策（共催・事業協力）	35	32	35	37	34
合 計	66	59	62	65	61

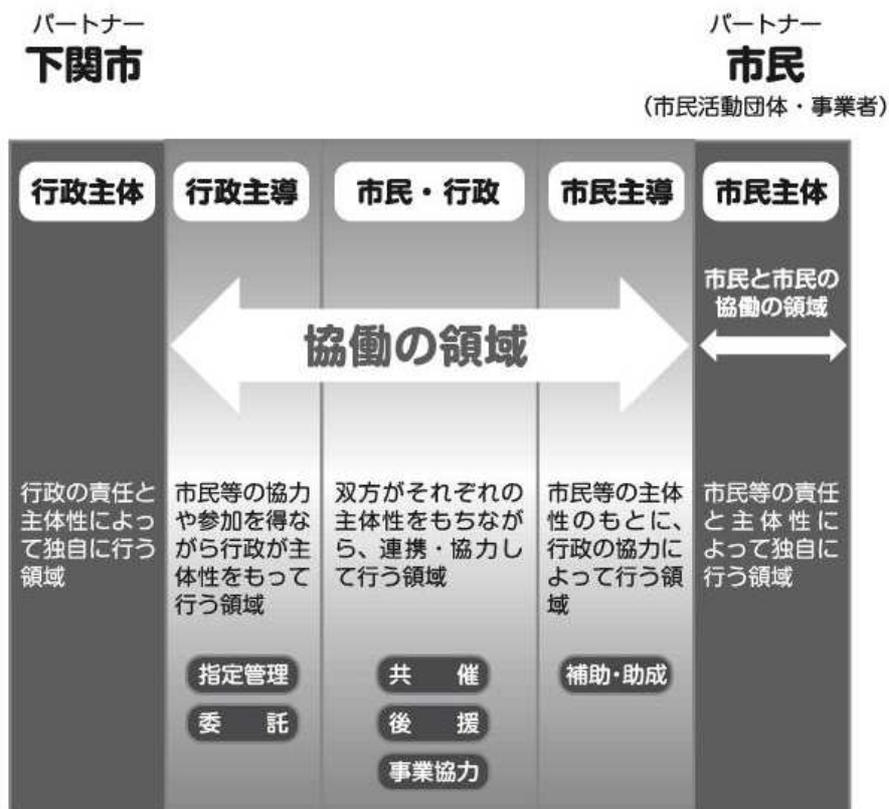


図 11 協働の領域

『市民協働参画パートナーシップハンドブック 平成 29 年 3 月改訂版』より

7 市内の市民活動の状況に関する事項

しものせき市民活動センターは、平成19年から行政と市民活動団体が連携したまちづくりの推進と、市民活動団体の活動支援を行っています。

平成29年度におけるしものせき市民活動センターの、会議室等利用実績は 1,044 件、利用者数は 28,195 人でした。

下関市市民活動団体登録要綱に基づく団体登録シートの提出団体（以下、団体という。）数は、平成29年度は 235 団体となり、その活動分野では、「保健、医療または福祉の増進を図る活動」（57団体）が最も多く、次に「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」（52団体）、「まちづくりの推進を図る活動」（31団体）、「子どもの健全育成を図る活動」（29団体）の割合が大きくなっています。

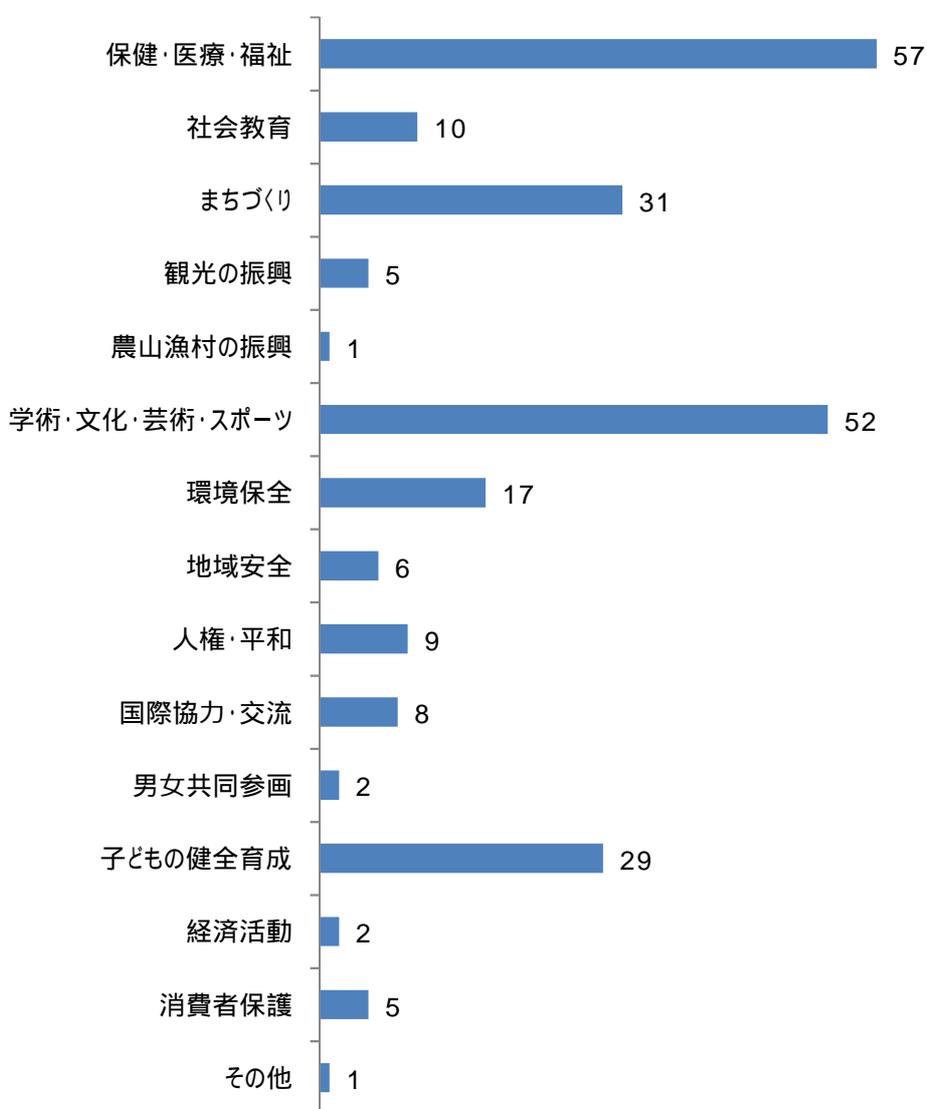


図 12 下関市市民活動団体登録要綱に基づく団体登録シート提出団体数とその活動分野

しものせき市民活動センター
市民活動取材票
(平成 29 年度)

しものせき市民活動センター 市民活動取材票 目次

取材日	団体名	ページ
H29.4.16	NPO法人 要約筆記しものせき	1
H29.5.20	『本が好きな人への情報』を発信するグループ	2
H29.6.2	下関友の会	3
H29.6.10	チャイルドラインしものせき	4
H29.6.15	コルトー音楽祭実行委員会	5
H29.6.25	下関モラロジー事務所	6
H29.7.22	山口肝友会	7
H29.8.6	しものせき国際交流ねっと	8
H29.8.19	下関空襲・終戦展実行委員会	9
H29.9.3	知的障がい者との共生グループ「グラント」	10
H29.9.24	一般社団法人全国パーキンソン病友の会山口県支部	11
H29.9.30	Shimobiでガーデンアート実行委員会	12
H29.10.9	晋作連	13
H29.10.20	下関図書館友の会	14
H29.11.11	あいれんか（愛憐花）	15
H29.11.11	下関市認知症を支える会「キャッチボールの会」	16
H29.11.18	下関リーディングの会	17
H29.11.23	permanent reality	18
H29.12.2	檜原ゆうあい会	19
H29.12.9	NPO法人シンフォニーネット	20
H29.12.10	ふれあいサロン 藤花会	21
H29.12.19	下関東部の文化財を見直す会	22
H29.12.19	朗読ハウスもがも家	23
H30.1.19	おせっかい集団with	24
H30.1.22	下関手話青い鳥の会	25
H30.2.17	多世代交流ほほえみサロン	26
H30.3.23	あいれんか（愛憐花）	27
H30.3.25	国際ソロプチミスト下関	28

取材先	NPO法人 要約筆記しものせき		
企画名	要約筆記体験講座		
備考			
取材日	平成29年4月16日(日)天候[晴れ] [13:00 ~ 15:00]	取材地	しものせき環境みらい館 3階 第2研修室

レポート

要約筆記は耳の不自由な人たちに、その場で話しの内容を文字で伝える筆記通訳の支援活動です。最近は大きな会場でスクリーンに映し出す方法も多くなりました。

まず始めに、実際に耳が不自由な方々の話を聞きました。高齢の方が多かったのですが、ほとんどの方が若い時突然耳が聞こえなくなり、それを受け入れることができなくて外にも出れず、何年もの間死のうと考え続けていたそうですが、要約筆記と出会い、友人や仲間ができ希望がもてるようになったそうです。

補聴器で解決できない場合や、年齢を重ねてから手話を覚える苦労などを考えると要約筆記はとても必要性の高いものだと感じました。

難聴についての話の後、参加者によるパソコンや手書きの要約筆記体験がありました。ゆっくり話してくれているのですが、パソコンで漢字変換するのに手間取ったり、話を聞きながら言葉を整理して手書きしている間に話を聞き逃したりと、なかなか思うようにいきませんでした。

目の見えない人は白杖を使っていたりして、外から見るとわかりますが、耳の聞こえない人は外から見てもわかりません。聞こえなくて困っている方に出会ったら要約筆記がある事を伝えていただきたい、と代表は話され体験講座は終了しました。

状況写真



手書きによる要約筆記



代表



パソコンでの要約筆記



参加者による体験コーナー



取材先	『本が好きな人への情報』を発信するグループ		
企画名	持ち寄り本好きの集い		
備考			
取材日	平成29年5月20日(土)天候[晴れ] [13:30~15:00]	取材地	下関市立中央図書館 4階 多目的室

「『本が好きな人への情報』を発信するグループ」は、本好きの世界を広げ緩やかに結び、読書を促し読書会を活発にすることを通して、人づくりと地域の人間関係を親密にする一翼を担うことを目的として活動されています。

今回取材させていただいた、ふらりと参加できる読書会「持ち寄り本好きの集い」は、好きな本を持って誰でも参加でき、また、本がなくても参加できる、とてもアットホームでユニークな読書会です。

まず初めに田中代表より、会発足の契機や目的及び活動内容の紹介がありました。記者としてご活躍中の現役時代は気にならなかったそうですが、人と人との繋がり希薄化に地域社会の将来を危惧されたのが始まりでした。二年前から活動を始め、2017年1月に満を持して団体を設立されました。

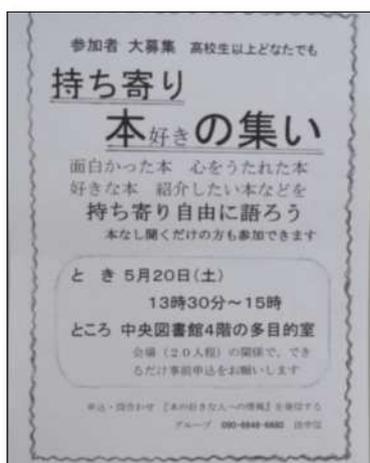
みなさん最初は緊張した面持ちでしたが、本の紹介が進むにつれ、次第に本の感想や意見で盛り上がりました。終盤には、近隣図書館の話題まで飛び出し、あっという間の90分でした。

最後に田中代表より、読書会への参加はもちろん、職場や学校、地域の読書会作りや運営の支援要請も大歓迎だそうです。

興味のある方は、是非一度お問い合わせをされてみてはいかがでしょうか。

レポート

状況写真



田中代表



持ち寄られた本



会の様子

みなさん緊張した面持ちで始まりましたが、田中代表のナビゲートで、会場の人と人が緩やかに繋がりました

(^_^)

取材先	下関友の会		
企画名	お菓子実習講習会		
備考			
取材日	平成29年6月2日(金)天候[晴れ] [10:00 ~ 12:30]	取 材 地	下関友の家

レ
ポ
ー
ト

下関友の会は、健全な家庭生活の発展のため着実な生活者を目指すという目的があり、雑誌「婦人之友」の愛読者の会でもあります。内容は会員の勉強会、外へ向けての講習会・バザー・子育てに関わる親・子の環境をよりよくしたいとの重点を置いた活動を展開しています。また、毎年、会員は衣・食・住・家計などを勉強しつつ家庭の充実を図り、社会をより豊かにしたいと、各種の講習会を定期的に実施しています。

今回は、<手作りおやつはシンプルに 今年の夏休み おやつは手作りしませんか！>と題した『お菓子実習講習会』です。開始前に講師より、本日のメニューに沿って材料・分量・注意点等の説明がありました。メニューは、ココロクッキー・フルーツヨーグルトシャーベット・あんみつ・人参ゼリー、どれも美味しそうなものばかり。完成品が楽しみです。参加者は4班に分かれ、約2時間の作業をします。ココロクッキーだけは、アーモンドときな粉・抹茶とごま・クルミ・ココア、と班ごとに異なる味で仕上げる事になりました。役割分担を心得て皆さん手際良く作業されたので、時間通りに完成しました。チームワークの良さは流石です！

場所を移して、試食&批評会。「とても美味しい！」皆さん全員の感想です。思ったよりも簡単に作れたので「家でまた作ります」の声。私も試食、「まいう〜」「お菓子の宝石箱やぁ」。

下関友の会の活動は料理・家事・子ども広場等色々な活動を行っています。興味のある方はお問合せのうえ、参加されてみてはいかがでしょうか。楽しいひと時を作りましょう。

状
況
写
真



講習内容の説明

4班に分かれて作業

講師
伊藤絹江氏



全体風景

総リーダー
伊藤セツ子氏

レシピ(虎の巻?)



< 完成品 >



ココロクック

人参ゼリー

あんみつ

フルーツヨーグルト
シャーベット



楽しい試食会

取材先	チャイルドラインしものせき		
企画名	大人のためのいまドキッ！子ども講座 第1回 「チャイルドラインとは」		
備考	2017年度第8期生「受け手ボランティア養成講座」を兼ねる		
取材日	平成29年6月10日(土)天候[晴れ] [13:30 ~ 15:00]	取材地	しものせき環境みらい館

レポート

「チャイルドライン」とは、18歳までの子どもがかける専用電話で、子どもの声に耳を傾け、子どもの気持ち、心に寄り添い、心の居場所を提供する事を目的としています。チャイルドラインしものせきは2011年に開設され、電話を受ける「受け手」40名とそれを支える「支え手」12名で構成されている民間の非営利団体です。

『大人のためのいまドキッ！子ども講座』は全12回で構成され、第8期生「受け手ボランティア養成講座」を兼ねています。今回取材した第1回目は「チャイルドラインとは」という講座の内容で代表の伊藤敦子氏が講師をされました。

新しく講座に出席された方は6名、入社2ヵ月めのピカピカの新入社員の男性もいらっしゃいました。すでに受け手をされている方を含め15名の出席者は女性が圧倒的に多く、参加の理由は様々でしたが、皆さん熱心にメモをとられていました。

事務局長の中川氏の挨拶後、代表の伊藤氏が参加者の緊張をほぐす為に、参加者とジャンケンをして、会場はとても和やかな雰囲気の中、チャイルドラインについて熱くお話をされました。この紙面ではとても語りつくせない盛りだくさんの講義でしたが、チャイルドラインの特長（子ども専用の電話であること・子どもに主導権があること・子どもが主人公であること）及びチャイルドラインのやくそく（ひみつはまもるよ・どんなことでもいっしょに考えるよ・名前は言わなくていいよ・切りたい時に切っていい）を強調されていたように思いました。

チャイルドラインしものせきは昨年1970件の着信があり、繋がった電話は954件で「聴いてほしい」という動機でかけてきた子どもが72%と大多数のようです。チャイルドラインの電話番号が書かれたカードを「いつかかけたい時がきたらかけようと、ずっと持っていました。実際にかけたことはないけれど、私のお守りでした。」という話を聴かれて涙が出たという代表の話に感動しました。

日本の子どもたちは、私たちの想像以上に、虐待・孤独・自殺・うつ病・貧困に苦しんでいるようです。心の居場所を作ってあげられるチャイルドラインしものせきの活動を支える「受け手」を育てる養成講座に、一人でも多くの方が参加され、未来を担う子どもたちが幸せな世の中になるよう心より祈りました。

状況写真



事務局長中川氏の挨拶



会長の伊藤氏



出席者全員でじゃんけん



熱心にメモを取る受講生



電話番号が書かれたカード
市内の小学生数校で全児童に一人ずつ手渡しをしました。



取材先	コルトー音楽祭実行委員会		
企画名	コルトーを偲ぶ会 ～ アルフレッド・コルトー没後五十五年 ～		
備考			
取材日	平成29年6月15日(木)天候[晴れ] [9:30~15:00]	取材地	川棚の杜 コルトーホール

レポート

アルフレッド・コルトー（1877 - 1962）はフランスを代表する大ピアニストで、美しいタッチと豊かな詩情で世界中に感動を与えました。教育においても評価され、講演付きコンサートは非常に人気でした。

コルトーは、昭和27年（9月-11月）生涯一度きりの日本全国ツアーで川棚温泉のホテルに滞在しました。ホテルの窓から見える響灘と厚島の景色に魅了され、当時の川棚村長に「天国のようなあの美しい夢の島でこっそりと死にたい。ぜひ買いとりたい。」と言い、熱心な気持ちに心打たれた村長と村民は「あの島に永久にお住みになるなら無償でさしあげましょう。」と快諾。コルトーは感動して、「トレビアン（感激）」を連発し、「必ずまた来る。私の思いはひとりあの島に残るだろう。」とつぶやいた。島の名前を「弧留島（コルトー）」と命名し、大いに喜んだコルトーは帰国後、「弧留島」と彫った印をサインの脇に必ず押していました。しかし既に75歳だったコルトーは病に倒れ、思いは果たせぬままこの世を去ってしまいました。

没後40年、コルトーがパリに設立したエコール・ノルマル学院には「カワタナにある夢の島」の話が残されており、記念事業として「カワタナ」で見つけた「夢の島」探しが始まりました。そして、川棚温泉のホテルに入った1本の電話から「カワタナにある夢の島」と厚島が再び結びついたのです。2010年、コルトーが滞在したホテル跡地には 川棚の杜・コルトーホール が誕生し、コルトーの胸像は厚島（弧留島）を眺めて立っています。

毎年6月15日の命日にはコルトーを偲ぶ会が続けられており、今年は献花のあと、ピアニスト川田健太郎さんがショパンの『雨だれ』など3曲を演奏しました。最後にもう1曲『ショパンノクターン20番』の演奏を伝えると、会場からはため息が漏れていました。演奏後、コルトーが好きだった“レモンティーとサクランボ”に川棚の名菓が添えられ、川田さんのトークを交えた茶話会があり、約60名が参加した偲ぶ会は終わりました。美しい海と山に囲まれた川棚、コルトーと厚島が永遠に途切れることのないよう語り継がれてほしいと思う。

状況写真



日本ショパン協会より貸し出されたカワイ最高峰のピアノ「shigeru kawai」



今日の「厚島」は霞んでいました。



コルトーホール



取材先	下関モラロジー事務所		
企画名	『道徳ってなかに』生涯学習セミナー		
備考			
取材日	平成29年6月25日(日)天候[曇り] [9:30 ~ 12:00]	取材地	下関市生涯学習プラザ 宙のホール

レポート

倫理道徳に関する研究を行っている公益財団法人モラロジー研究所が全国に設置を承認している事務所の一つが『下関モラロジー事務所』。小学校では今年度から、中学でも来年度から「道徳」の授業がはじまりますが、その「道徳」について学ぶ会です。モラロジーとは、モラル（道徳）とロジー（学問）を組み合わせた、人間・社会・自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求することを目的とした総合人間学の名称です。

今回は「生涯学習セミナー」と題して、下関地区から約30名が参加し、2日間にわたる大きな勉強会でした。

講師からは相手に感謝し、思いやる行いをする。このことによって、人と人の関わりがうまくゆく。知識や人生経験から得られたことを例に挙げてたくさんのお話を伺いました。また、家族の関係が複雑でも、揉め事が起こりそうになっても、モラロジーを勉強されている身内がいて、素直に話を聞いてくれる家族がいれば、問題を乗り越えられるといった、今現在のご家族の実体験も話されていました。

よりよい人生を築くために、ひとりひとりが高い品性を培い、その心づかいを家庭や職場、さらに社会、国家へと漸時に普及していくことによって、真に心豊かで平和な世界の実現を目指す...そのモラロジーの勉強会は、しものせき市民活動センターを会場に開催されています。参加希望の方は下関モラロジー事務所までお問合せください。

状況写真



社会教育講師の上甲先生と湯浅先生



2日間にわたる生涯学習セミナー



地元長崎の紹介を取り入れながら、話題が豊富な上甲先生



質疑応答に丁寧に答えて下さる湯浅先生。取材時間の都合でお話を伺えなかったのが残念でした。

取材先	山口肝友会		
企画名	「絆・写真展」		
備考			
取材日	平成29年7月22日(土) 天候[晴れ] [14:00 ~ 15:00]	取材地	しものせき市民活動センター 多目的交流ホール

レポート

「山口肝友会」は、肝臓病でお悩みの患者さんと家族の会で、交流を通じて「癒し」を目的に、交流会・講演会・勉強会等を開催しています。年間の主な活動の一つに、「絆・写真展」があります。

一昨年、昨年と豊北町のペンションで一日のみの開催となりましたが、今年は当センターの多目的交流ホールで二週間の展示会となりました。期間中は、たくさんの方にご来館いただき、いつも以上に賑わいのあるセンターでした。

会員をはじめ、家族や賛助会員、地域の皆様が愛用のカメラで撮った写真には、「病気に負けず前向きに」、「悩みや辛い気持ちに寄り添う」...それぞれの思いが込められていて、素敵な「絆・写真展」となりました。

今回残念ながら見逃してしまった方、そして、もう一度ご覧になりたい方に朗報です。今秋10月に、下関医療センター(上新地町)に会場を移して開催されるそうです。日時が決まり次第、センターの掲示板やホームページにてお知らせいたします。どうぞお楽しみに！

状況写真



山口肝友会
「絆・写真展」



上田代表(右から3番目)と会員の皆様



取材先 企画名 備考	しものせき国際交流ねっと		
取材日	平成29年8月6日(日)天候[晴れ] [14:00~16:00]	取材地	下関生涯学習プラザ 2F 学習室1

レポート

「イスラム教っていろんな決まりがあるんでしょう？断食をしたり、女性は髪を隠さなきゃいけないかったり…」イスラム文化って分からないことだらけではありませんか。イスラム教の基本的な文化を知り、皆と一緒に考えるワークショップが行われました。

ムスリムの人たち（イスラム教徒）は道端や学校で出会うと「アッサラーム・アレイクム」（あなたの上に神の平穏・平和がありますように）、「ワ・アライクム・サラーム」（あなたの上にこそ、平穏・平和がありますように）とあいさつを交わし、ムスリムでない人もこのあいさつで平和な気持ちで1日が送れるそうです。

ワークショップでは、ハラールマーク（ムスリムの人々が安心して食べられる食材）についてイスラムの教えについてビデオを見てそれぞれの立場を考えました。

では、テーブルに家族と食品が写った写真が配られ、共通のものは何かを話し合いました。では、祈り・食や生活・戦争などイスラムの教えについて×形式で発表しました。のビデオでは、外国へ転校してきたムスリムの生徒に、公平を保つためヒジャブをとるよう説得する先生と、拒否する生徒の会話を、それぞれの立場に立った自分の感情について話し合いました。衝撃的だったのは、説得されヒジャブを取って入った教室中の生徒は、帽子やスカーフ、ヘアバンドをしており自由だったこと。宗教としては駄目でファッションとしてはいいのか、なぜ宗教を含めた1人の人間として受け入れる事ができないのか、やるせない気持ちになりました。「“ ”の人」と大枠で捉えていないか」、「価値観や文化・風習は多様なのだ」と話されました。

終わりに、参加者が輪になり額にシールを貼られ、同じ人を見つけてくださいと指示されました。自然と全員シールの色別に分かれてしまいましたが、進行役から「同じ人を見つけてくださいとは言ったが、グループに分かれてくださいとは言っていない。」といわれ、異文化について学んだ事が心に入っていないと反省しました。

約40名の参加者は下関市立大学をはじめ市内の大学生、山口大学や留学生、一般の方々と、異文化を受け入れる事は「受ける側の捉え方なんだ」と話され終了しました。

状況写真



ハラール
マーク



礼拝 (サラート)

ファジャル(Fajar)・・・明けがたから日の出まで
 ソフル(Zohar)・・・正午から昼すぎまで
 アッサル(Asar)・・・昼すぎから日没まで
 マグリブ(Maghrib)・・・日没直後
 イシャ(Isha)・・・就職前

1日5回の礼拝



ハラール認証のきびだんご

代表の石井氏



最年少参加
の中学生

取材先	下関空襲・終戦展実行委員会		
企画名備考	第13回下関空襲・終戦展 ～戦争とプロパガンダ～		
取材日	平成29年8月19日(土) 天候[晴れ] [14:30~16:00]	取材地	にししんギャラリー

レポート

今年で13回目を迎えた下関空襲・終戦展。今年は長野県阿智村からの平和へのメッセージです。なぜ今回は下関ではなく、阿智村なのか。1931年の満州事変より1945年まで、日本から満州へ多くの開拓移民が渡って行きました。開拓移民を最も多く輩出したのが、長野県。満州へ渡る航路の一つが鉄道で旧下関駅に着き、関釜連絡船で朝鮮へ。そこから鉄道で満州へというルートだったそうです。満州を目指した人々が下関を通過したご縁から今回の企画展が開催されました。ポスターを提供してくれたのは長野県阿智村役場。当時の村長が保管していたものです。同じく阿智村にある満蒙開拓平和記念館からは満蒙開拓団に関するパネルの提供を受けました。

作家・画家・歌手・・・芸術家たちも兵隊として戦地に赴きます。兵隊の日常を綴った本は、戦争を賞賛する書物としてもてはやされ、画家は「戦意高揚」につながるような内容のポスターを制作し、歌手は戦いを称える歌を歌う・・・有名な画家や下関出身の歌手の名前も聞かれました。当時の本人たちの想いはわかりませんが、観覧に訪れていたご老人は「あの頃は、違う！おかしい！と思っけていても、そんなこと口に出せんかった。」と語っていました。

展示物の中には、終戦の3ヶ月前位に発行された「海軍志願兵徴募（昭和21年度採用）」のポスターがありました。軍部は終戦の予感もなく、まだ戦争を続行させる意向があったことが読み取れるようです。ポスターの表現の中からそういったメッセージを見つけ出して欲しいと説明を受けました。

夢を持って満州へ渡った満蒙開拓団の苦難。戦争に巻き込まれ犠牲になったり、日本へ帰ることができなかつた人々の苦しい人生。

疑問に思うことを発言できる世の有り難さ。今後このような歴史を繰り返さないことを誓い、平和な時代が続くことを祈りました。

状況写真



代表の井手さん(左)と会のみなさん



再現された竹槍。これで戦うのかと驚きました。

取材先	知的障がい者との共生グループ「グラント」		
企画名	グラント15周年記念「表現会」 ～アートフェスティバル～		
備考			
取材日	平成29年9月3日(日)天候[晴れ] [13:30 ~ 16:30]	取材地	下関市民会館 中ホール

知的障がい者との共生グループ「グラント」は、自宅と学校や作業所などの行き来だけでなく、余暇の時間を地域の老若男女の皆さんと一緒に過ごし、障がいのある人たちの居場所づくり・仲間づくりをしています。地域の人たちと関わる中でルールやマナーを学び合い、助け合い、思いやりを育み合ってきました。こうしてつながった人たちに支援してもらい、協力してもらい、和気あいあいとした15周年記念「表現会」が開催されました。

入り口では表現会参加者の作品展示や、福祉事業所などのパン・お菓子の販売がありました。会場内では、「グラント」メンバーや市内の福祉団体の皆さんの太鼓や軽快なダンス、弾き語りに加えて、メンバーの歌の先生、手話を通じてつながった人など「グラント」と関わりのある人たちとその仲間による、“癒し系の歌” “手話を交えた歌” “ゴスペル”などのパフォーマンスで盛り上がりました。障がいのある人もない人も一緒に舞台上がり、とてもいい表情で表現していました。拍手をもらうことで自信につながるとアナウンスがありましたが、表現の前は不安な表情をしていた人もたくさんの拍手をもらってとてもいい表情に変わったのが見て取れました。こうして自信をつけ、新しい仲間と繋がり、また輪が広がっていくことを願っています。ふれ合って向き合うことから、障がいのある人たちとの共生への一歩が始まることを感じました。



どの表現者も、障がいがあってもこんなに出来る！と思わせる演技でした。

状況写真



「グラント」メンバーと繋がりのあるみなさんのパフォーマンス



個観客と手話で「上を向いて歩こう」を歌いました。手話が少し身近なものになりました。



←「表現会」参加者の作品

取材先	一般社団法人全国パーキンソン病友の会山口県支部		
企画名	全国パーキンソン病友の会山口県支部創設30周年 記念式典・記念講演会		
備考	(演題) iPS細胞を用いたパーキンソン病治療のこれから		
取材日	平成29年9月24日(日)天候[晴れ] [12:30~15:15]	取材地	下関市民会館 中ホール

レポート

一般社団法人全国パーキンソン病友の会山口県支部は、下関市内のパーキンソン病患者、家族および会の目的に賛同する一般市民が連帯して、パーキンソン病患者の医療、福祉、療養生活の充実向上、推進を図る事を目的とし、医療、福祉関係者の講演などによる勉強会や患者のリハビリテーション活動の普及と指導、療養生活体験の交流及び親睦の為の集会やレクリエーション等を行っています。現在の支部長は5代目で、樋口日出夫氏が務めています。

まず、しものせき・竹アンサンブルのバンブー演奏で始まりました。「海の声」「コンドルは飛んで行く」等の演奏、美しい竹の音色に魅せられて心が安らぐひと時でした。

式典は来賓・支部長の挨拶へと移り、今日の開催の喜びと感謝が述べられました。

続いて本日のメインである、京都大学iPS細胞研究員の高橋淳教授による「iPS細胞を用いたパーキンソン病治療のこれから」という講演会でした。京都大学iPS細胞研究と言えば、ノーベル賞受賞者の山中伸弥教授が有名ですが、高橋教授も、“パーキンソン病のサルにiPS細胞を移植し症状が改善した”という記事が最近の新聞に載った程の有名人です。体のさまざまな細胞に変化する能力があるiPS細胞(人工多能性幹細胞)で、病気やけがで失われた体の働きを人工的に補う再生医療への応用が期待されています。パーキンソン病患者は全国で推定16万人、一刻も早い治療を希望する願いもあり、来年から人への治験を始める予定だそうです。過去に不治の病と言われたものでも、現在では治る病になった事を考えれば、パーキンソン病もその可能性は十分あると思います。希望を持って病を克服していかれることを願っています。

状況写真



講演会風景

♪ バンブー演奏 ♪



樋口支部長



京都大学iPS細胞研究員
高橋教授



来賓席



熱い思いで耳を傾けて・・・



役員の皆様



取材先	Shimobiでガーデンアート実行委員会		
企画名備考	Shimobiでガーデンアート		
取材日	平成29年9月30日(土)天候[晴れ] [12:00 ~ 14:45]	取材地	下関市立美術館屋外

レポート

Shimobiでガーデンアート実行委員会は下関の市民に文化・芸術に親んでもらい、美術館の存在や認知度を上げていくことを目的に平成28年に設立された団体です。今年で2度目となるこのイベントの日はまさに野外芸術活動日和となり、アーティストを応援してくれているようでした。朝10時豊浦小学校の金管クラブの演奏から始まり、夕方18時まで、市内のアーティストの協力で広い美術館の庭いっばいに様々なアート満載なプログラムです。

まず目に飛び込んできたのはタイヤで作った怪獣のようなオブジェです。子供達が上に載って遊ぶこともできます。段ボールをキャンバスに自由に描き、広場いっばいに広げた絵は広い屋外ならではのアートではないでしょうか。はがきにパステル画、木炭スケッチ、ストーンペインティング、絞り染め、等々。3人のアーティストによる似顔絵を描いてもらうコーナーもとても人気でした。アーティストの個性が出てとても面白かったです。そして、ミュージック！弦楽アンサンブルやフルートの美しい音色はアーティストの心を躍らせたことと思います。Shimobi(下関市立美術館)って楽しい！と日ごろアートに無縁な人も思っただけです。

この体験型のアートのイベントを通じてアートを身近に感じ、「将来はアーティストに！」「趣味でやってみよう！」と多くの参加者が興味を持ち、下関の才能あふれる芸術家の輪をどんどん広げて欲しいと願いながら会場を後にしました。



取材先	晋作連		
企画名	高杉晋作ウオーク <第8回(新地・櫻山神社コース)>		
備考			
取材日	平成29年10月9日(月・祝)天候[晴れ] [9:30~12:30]	取材地	新地~櫻山神社

レポ
ー
ト

本年は、高杉晋作没後満150年。下関に住んでいながら初めて行く高杉晋作ゆかりの地です。秋晴れの中、下関観光ガイド前会長 平松資郎先生の案内で、にじむ汗を拭きながら22名の参加者の皆さんと歩きました。歴史に関心のある方が多く、皆さん積極的に質問されメモを取られていました。

JR下関駅を出発し、長泉寺跡 白石正一郎旧宅跡 江戸時代の道[赤間関街道] 高杉東行終焉の地 萩藩新地会所跡 巖島神社へと歩きました。巖島神社では奇兵隊が小倉城より「小倉戦争勝利の証」として持ち帰った太鼓があり、その音は当時門司港まで響きわたっていたそうです。続いて高杉東行療養の地 櫻山神社 了圓寺 伊崎町路地(映画のロケ地) ひょうたん井戸 関谷松兵衛宅跡 大洋漁業本社跡をめぐりウオークは終了しました。

伊藤博文は「奇兵隊の中で畳の上で死んだのは高杉晋作だけ。あれだけ命を狙われても生き延びた、人生の名人だ。」と言っていたそうです。

中道や裏路地、抜け道など初めての道を歩きましたが、疲れを感じることもなく下関と晋作、奇兵隊の歴史を学びながら楽しく歩くことができました。

来年は明治維新150年。さらに新しい企画を考えているそうです。『明治維新発祥の地下関』を県内、県外そして海外から訪れたお客様に発信していただきたいと願います。



取材先	下関図書館友の会		
企画名	講話「人生のレシピとして・・・大人が絵本を楽しむ方法」		
備考			
取材日	平成29年10月20日(金)天候[晴れ] [10:00 ~ 12:00]	取材地	下関市立中央図書館 4階 多目的室

レポート

講師に、“多世代交流ほほえみサロン”で活動され、10数年前より「グランマの絵本の森」を開催されている松原玲子氏を招き、「人生のレシピとして・・・大人が絵本を楽しむ方法」というタイトルで講話がありました。下関市立中央図書館の多目的室は絵本に興味ある大人で満席でした。女性が圧倒的に多かったです。

はじめに、シニア世代へに向けて、趣味等を通じ地域の人々との関わりを持つ大切さに触れられ、自己紹介を含めたご自身の絵本との関わり、46歳でゆたか児童館での勤務が人生の転機になったことなどを語られました。次に「絵本は人生に三度」柳田邦夫の本を紹介され、ご自身は四度(子どもの時、親として、孫に、自分自身へ)読んだ方が良いと話されました。さらに、日本での絵本の歴史など、海外の絵本の日本語訳が必ずしも正確でないことなども興味深かったです。次に、松原氏が好きな絵本や大人が読んでも面白い絵本「ねないこだれだ」「旅の絵本」「はるはあけぼの」「あらしのよるに」「はっばのフレディ」「しろくまのパンツ」「いいから いいから」などたくさんの絵本をページをめくりながら紹介されました。最後に海外の翻訳本「すてきなさんにんぐみ」と落語の絵本「めぐろのさんま」2冊をじっくりと読んでくださいました。

松原氏の温かいパーソナリティあふれるお話に引き込まれた時間でした。絵本との関わりを子どものころからあまりないまま大人になった私自身は、絵本の魅力を改めて知り、今絵本を読んでもいいのだ！子供以上に楽しめるはず！と確信が持てた嬉しい日となりました。

状況写真



図書館友の会代表の田口氏(左)と松原氏



たくさんの絵本を紹介していただきました



子どものように絵本に興味深々の皆さん



「旅の絵本」
絵だけの絵本



0歳からの絵本



お話も絵も楽しい！



取材先	あいれんか（愛憐花）		
企画名	癒しと笑顔を、難病と障害への理解を求めて 愛と癒しの じぞ和～るど展		
備考			
取材日	平成29年11月11日(土)天候[晴れ] [15:00~16:00]	取材地	よろずカフェ（唐戸）

レポート

あいれんか（愛憐花）は、障がいのある人もない人も、病気の人でも元気な人も、子どもからお年寄りまで“みんなが支え合える街づくり”を目指して会を立ち上げました。愛憐花の名は、人の命を慈しみ、憐れむ、人の痛みを理解し何かをしてあげたいという心を大切に、その心が花のように美しく咲くようにと名づけられました。

代表の上田さんは、ジストニアという希少難病と闘いながら地蔵画を描いています。病気を発症したのが平成26年。手が震え文字が思うように書けず、入院中のベッドの上でイラストを描いたのが始まりです。お世話になった方に、お地蔵さまの絵を渡すととても喜んでもらえた。その笑顔を見て、嬉しくて地蔵画を描き始めたそうです。

癒しの絵画展は11月1日から11月30日まで店休日の日曜日を除いて10:00~18:00の間、開催しています。今日は北九州から協力者である朗読の先生が来られ、朗読会が行われました。もともと舞台役者をされていたようで、声を使い分け、場面の表情が浮かんでくる話し方で、まるで自分がその本の中のように感じられた朗読でした。朗読の後、上田さんが現在枯れつつある“川棚のクスノ森”を書いた詩『さけび』を先生が読み「クスノ森の樹勢回復費用」の募金を募りました。募金箱は最終日まで設置しており、集まった募金は「クスノ森を守る会」に渡されます。苦しい時、つらい時にパワーをもらってきたクスノ森の変わり果てた姿に大変心を痛め、その思いを話されました。今後、11/21オカリナコンサート、11/27ワークショップが行われます。

来年の目標として、今までのスキルを生かし、病気や難病についての相談や講演会などにも取り組んでいくそうです。これからの活躍を期待します。

状況写真



取材先	下関市認知症を支える会「キャッチボールの会」		
企画名	原田典子講演会 「認知症の方と共に歩む秘訣～住み慣れた我が家で永く過ごすには～」		
備考			
取材日	平成29年11月11(土)天候[晴れ] [10:00~15:00]	取材地	しものせき市民活動センター 大会議室

レポート

「もしも、家族が認知症と診断されたら、一人で抱え込まないで、不安なこと、貴方のこと、家族のことを話してください。一緒に考えていきましょう。」そんな思いで、『下関市認知症を支える会「キャッチボールの会」』は、認知症の方とその家族、介護者を支える会として、月に3回、家族会や相談会・介護の勉強会等を開催しています。今回は、「認知症の方と共に歩む秘訣～住み慣れた我が家で永く過ごすには～」のテーマで原田典子氏に講演していただきました。

原田氏は、防府市で平成17年、看護職として訪問看護ステーションを起業。地域に根差した看護を目標に、在宅療養者に寄り添い、在宅療養生活の質の向上を図っています。平成24年には、全国でも希少な試みである、医療依存度が高い方も宿泊できる短期入所生活介護サービスを行う「コミュニティプレイス生きいき」を開設。こちらも、地域に根差した援助の展開をしています。どちらの事業所も、介護する方もされる方にとっても、大変貴重だと強く思いました。

講師の紹介後、認知症の基本的知識を学びました。認知症には、いろいろなタイプがあり、適切なケアを行えば症状がぐんと減少するそうです。原田氏の明るく元気な、身振り手振りを交えたわかりやすい講話で、介護で不安や悩みのある方は、前向きな気持ちになれたことと思います。

また、講演の後は、講師を囲んで会員間の相談・交流会を開催。日頃はなかなかできない、心に秘めた気持ちを吐露する機会とあって盛会のうちに終わりました。

「もしも、家族が認知症と診断されたら...」全部ひとりで抱え込まないで、頑張りすぎないでください。下関認知症を支える会「キャッチボールの会」は、貴方の味方です！

状況写真



高玉代表



原田典子氏



講演会の様子



㊦ 相談・交流会の様子 ㊧

取材先	下関リーディングの会		
企画名備考	リーディングワークショップ		
取材日	平成29年11月18日(土)天候[晴れ] [13:00 ~ 16:00]	取材地	暁の星幼稚園 体操の部屋

レポート

下関リーディングの会は演劇、ワークショップ等を通じて地域の文化・芸術振興に関わる問題の改善や解決をはかり、地域の人々の生活に文化・芸術が根付き、地域が活性化されることを目的とされ平成28年に設立された団体です。今年数回公演をされています。

「リーディングワークショップ」って何？と興味深々で取材地に向かいました。出席者はメンバー4名を含む10名でした。まず、代表の江原千花氏の指導で体を少しストレッチ。そしてもう一人の代表者であり、指導者の和田喜夫氏を中心に座り、自己紹介から始まりました。退職後にエキストラで通行人などをやっているが、セリフもあった方がいいので勉強したいと男性2人、過去に演劇部やミュージカル部に所属されていた女性、健康のために出席したという男性、年齢も目的も様々のようでした。

今回の台本は「セロ弾きのゴーシュ」宮沢賢治原作の童話です。1回目は順番に読み通し、2回目は役を決めて読み、休憩をはさんで3回目は一列になって役を決めて、和田氏のアドバイスを挟みながら読んでいきました。参加者の緊張も少しずつほぐれて、徐々に「セロ弾きのゴーシュ」の世界へ入っていく様子がわかりました。時間があっという間に過ぎてしまい、最後まで進めなかったのは残念でした。

「リーディングは台詞を覚える大変さが無く、予算や時間の負担無しにでき、観客も楽しめる素晴らしい形です。」と和田氏(会のHPより)。なるほどと納得！

和田氏が時折話されるお話はとても興味深く、氏の経験、知識の豊かさを感じました。ネコやタヌキの耳を付けた毛糸帽の小道具などは和田氏の奥様の手作り。この日は寒い日でしたが、会の方(江原氏のお母さま)が用意してくださったカイロ、ひざ掛け、熱いお茶などで心身暖かくなるワークショップでした。誰でも参加できる明るく、親しみやすい演劇を目指して活動されている下関リーディングの会の皆様にエールを送りたくなりました。

状況写真



体をストレッチ



役を決めてリーディング



代表和田氏

代表江原氏



カッコウとネズミ



かわいい椅子に座っています



江原氏

和田氏



3度目は一列に並んで



取材先	permanent reality		
企画名	a mark ‘跡’ - 武田充生の原風景		
備考			
取材日	平成29年11月23日(木)天候[晴れ] [13:00 ~ 15:00]	取材地	川棚の杜 コルトーホール

レポート

permanent realityは、現代アーティストとの協働により実演芸術（インスタレーションを含む美術・音楽等のパフォーマンス）を創造・発信する催物を企画・制作・主催し、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育み、心豊かな生活を実現することを目標にかかげ、地域の活性化と芸術文化の振興に寄与することを目的に活動しています。

今回は、下関市彦島出身で東京藝術大学卒の彫刻家武田充生氏による‘お水でアートon theストーン’と銘打って、石の彫刻とコンクリートの床に水でお絵描きでした。

参加者の皆さんはもちろんのこと、私も水のアートとはどんなものか初めての体験です。武田氏曰く「表現するのは自由、自分の想いを水に託して思い切り好きなように表現して構わないんです。アーティストになったつもりで、あなただけのものを作ってください。どれだけ常識を壊せるか。」水を使い屋内外でのワークショップ。外の広場では自然に融けこみ、屋内では石との調和を感じる。皆さん冷たい水にも負けず、一生懸命に自分を表現をしていました。冷たいけれど、面白かったです。

今年の4月に団体を立ち上げたばかりのpermanent reality。皆様に喜んでもらえる活動を目指しています。また、会の趣旨に賛同される方の賛助をお願いいたします。

状況写真



バルタン星人？



水に念力！！



彫刻家 武田充生氏
(下関市彦島出身)



貴重な体験しました。お疲れ様～

取材先	檜原ゆうあい会		
企画名	第11回 郷土史講座 朝倉弘詮と諏訪勝山城	中世山城考	
備考			
取材日	平成29年12月2日(土)天候[晴れ] [10:00~12:30]	取材地	妙栄寺 (豊田町檜原)

レポート

寒い朝でした。今日の豊田町は、今年一番の冷え込みで薄く氷が張っていたそうです。会の活動のメインの一つである第11回目となる歴史講座は、講師に下関市文化財保護課主任の中原周一氏を迎え「山城」についての講義でした。

日本で初めて「城」がつくられたのは、今から約1700年前の邪馬台国『卑弥呼』の時代だそうです。「城」と聞けば天守閣のある城を想像してしまうのですが、「山城」は山頂部に自然の地形を利用して造られた地域間の紛争や地方支配のための施設です。下関市内では現在約70箇所の城郭遺跡の存在が把握されているそうです。山城を調べる方法としては古記録や地籍図、発掘調査、地域の伝承などで、そのほか登山者からの情報も意外と有効だそうです。

豊田町にある山城の紹介の後、山城の楽しみ方として「山城は身近なところにある。下を向いて歩き、周囲を見渡し凸凹などに感動し城を想像してみましょ。」と言われました。そしてなんと、山口県には、文書には残っているがまだ発見されていない『幻の山城』があるそうです！山城は標高200~300メートルの身近な山にあるので、興味のある方は山城の大発見者になってみませんか。見方としては、石積や石垣、曲輪、水堀、わざと斜面をカットしているなど人工的につくられた土地を探すそうです。山に入る時は、持ち主の方もおられるので出会う人には挨拶をし、獣やマダニなどに注意し、なるべく一人では登らないようにして探索してください。

講座は、議題を見たときは難しく感じられたのですが、内容はとても面白く興味深い話でした。約40名の参加で講義終了後、会で用意していただいたおにぎりや豚汁をいただきながら講師を囲み懇談をしました。会の目的である地域資源を活用した「学びの郷づくり」。みなさんの活動が広がることを期待します。



取材先	NPO法人シンフォニーネット		
企画名	女性ホルモンのバランスによる症状とその対策 ～ 発達や精神の障害を抱えた皆さんの生き生きとしたライフワークを支えるために～		
備考	三菱重工業㈱下関造船所「地域・社会連携資金制度」		
取材日	平成29年12月9日(土)天候[曇り] [13:00 ~ 15:30]	取材地	海峡メッセ下関 801大会議室

レポート

NPO法人シンフォニーネットは1999年、発達障害という言葉がまだ世に知られていなかった頃、不安を抱える親子の居場所として「キラキラキッズ」の活動を始めました。2007年にNPO法人格を取得し、子ども達の成長とともに、「下関おしごとクラブ」、障害者福祉サービス事業所「mimihanaカフェ」の開所など、発達障害の子ども達の就労にも対応しています。

この日は年一回開催される講演会。会場ではスイートオレンジの香りが漂い、クレオパトラも飲んだという青いお茶がふるまわれました。レモンスライスを入れると色が変わる不思議なお茶で、解毒作用もあるとか。綺麗になれそうです。

講師は精神科・産婦人科医の中並朋晶氏。「女性ホルモンのバランスによる症状とその対策」と題してお話を伺いました。

女性はホルモンに影響され、戦いながら生活している、女性らしさに影響を与えるホルモンによって、アンチエイジングに効果があったり、やる気を起こさせ、認知機能を高めたりする一方、ホルモンの働きが強すぎて悪い症状が出ることもある。酷い例では、社会生活ができなくなることもあるそうだ。またホルモンの影響でおこる症状がうつ病などと似ているため精神科を受診してしまい症状が改善されないことがあるとか。

その他、月経前症候群に有効なお薬の紹介もありました。女性なら誰しも思い当たる症状にうなずきながら聞きました。

専門以外にも知識が豊富な先生のお話に、予定された時間では足りないくらいでした。

今回の講演会以外にも「mimihanaカフェ」でワークショップなども開かれるそうです。フェイスブックを要チェックですね。

状況写真



講師の中並先生



NPO法人シンフォニーネット代表



取材先	ふれあいサロン 藤花会		
企画名	作品展&バザー		
備考			
取材日	平成29年12月10日(日)天候[曇時々雨] [10:30~14:30]	取材地	大坪ふれあい会館

レポート

『ふれあいサロン藤花会』は、主に藤附町と大坪本町に在住の高齢者の団体です。自分達の可能性を生かし、興味の範囲を広げ、楽しみながら地域の交流の輪を大きくしていこうと活動しています。主な活動は、月に2回程度の手芸や料理等のものづくり、年1~2回の講習会の開催です。また、手作り雑巾の配布やお楽しみ会を通じて地域の子供達とも交流を深めています。

本日開催の「作品展&バザー」は今年で3回目を迎えました。近頃では、雑巾用タオルのほか、材料の提供等、地域で会の活動が広く知られるようになり、繋がりがあがるそうです。

当日はとても寒くて、お伺いした時には身体が冷え切っていましたが、藤花会の皆様が優しい笑顔で温かく迎えて下さったおかげで、身も心も一気に温まりました！出入り口には花の絵画と鉢植えが飾られ、中に入ると室内全体に展示された、小物入れ、置物、絵画、書道、写真など、ふた月前に市内各地区で開催された市民文化祭を思わせる内容でした。同じテーマの作品でも、少しずつ表情が違い、訪れた人たちの目を楽しませてくれました。藤附町、大坪本町内の方はもちろん、近隣の方や会員のご家族が作品を見に来られていました。開催30分後には50人以上の方が訪れ、各コーナーとも大変賑わいました。

会員の平均年齢が80歳近くと聞きましたが、みなさん年齢のハンディを全く感じさせず、明るく元気な笑顔がとても素敵でした。会員最年長は、なんと87歳！「何が一番楽しいですか？」の問いに「こうしてみんなに会って話をするのが楽しいです！」と答えてくれました。

「ワンコイン(500円)で介護サービスに頼らないで元気に過ごす。」と、目野代表の言葉。これってとても素晴らしいことだと思いませんか？

『ふれあいサロン藤花会』は主に毎月第2・3木曜日、藤附町にある「大坪ふれあい会館」にて活動をされています。会の益々のご発展を期待しています。

状況写真



来年の干支「戌」にちなんだ作品



全会員による作品です



素敵な作品ばかりです



目野代表(最前列右端)と藤花会のみなさん



一番の賑わいはバザーとくじ引きでした！

取材先	下関東部の文化財を見直す会		
企画名備考	ようこそ！関門が織りなす歴史と文化を語り継ぐ下関夜話会へ ～日本初のシンガーソングライター 林伊佐緒～		
取材日	平成29年12月19日(火)天候[晴れ] [10:00 ~ 11:30]	取材地	亀山八幡宮 儀式殿

レポート

昭和56年から始まった夜話会は、今回でちょうど380回目となりました。偶然にも昭和56年は、本日の講師である山根徹氏が生まれた年にあたります。

山根氏は平成23年、王喜地域の方々からの強い要望により、林伊佐緒を顕彰する「林伊佐緒 偲ぶ会」を設立しました。林伊佐緒の奥様はこのことに大変喜ばれていたそうです。

林伊佐緒は明治45年、旧厚狭郡王喜村に生まれ、明治大学在学中に『旅の雨』でレコードデビューをしました。その当時の芸名は、マイフレンド。まったく売れなかったので変えることとなり、今の芸名になりました。優れた歌唱力でオーディションを勝ち抜きキングレコード専属となり、歌手と作曲の両面で活躍しました。今では多いシンガーソングライターですが、当時は画期的な存在だったそうです。後に林伊佐緒は、「本当は作曲家になりたかった。歌のほうが先にヒットしたためそれができなかった。」と言われていたそうです。曲作りは当時、多忙だったため机の上で譜面を書くことができず、汽車の中で移動中に書いていたそうですが、揺れがひどいため、頭の中の五線譜に書いていたそうです。

コーヒーが大好きで、ステージ衣装も派手なものは着ずに普通のスーツで、飾らない温厚な人だったそうです。また、郷土愛が強く、山口県内の校歌や社歌も多く作曲しています。林伊佐緒の曲は3,000曲ぐらいあるので、山根氏はそれを現在発掘しているそうです。当時の映像やレコードで林伊佐緒の歌を聞き、講演は終了しました。

主催者の井手氏は、「顕彰していかないと物語は始まらない。永く続けていってほしい。」と言われました。下関東部の文化財を見直す会はこの度、下関文化協会より長く活動してきた功績を認められ表彰されました。山口県、下関市の歴史・文化を私たちも多く学び、次世代へと語り継いでいきたいと思えます。

状況写真



主催団体の
井手氏



レコード大賞
特別功労賞の盾



林伊佐緒の
サイン色紙



取材先	朗読ハウスもがも家	
企画名	クリスマスの朗読会	
備考		
取材日	平成29年12月19日(火)天候[晴れ] [13:00 ~ 13:40]	取材地 関門医療センター 4階 ひまわり文庫

レポート

「朗読ハウスもがも家」は、メンバー5人で今年9月に活動センターに登録された団体です。朗読の楽しさ、面白さを発信すると共に、朗読により心身の健康維持・促進を目指し、教養を深め、知的好奇心を満たし、地域文化の発展に貢献することを目的に活躍されています。意欲的に活動され、代表の田丸氏の魅力的な朗読力もあり、短期間に会員数も倍になられたそうです。

この日は毎月第3火曜日、13時より関門医療センターで開催されている朗読会の取材をしました。クリスマスが近く「クリスマス朗読会」と題した朗読でした。会場は高層の病院の4階、関門海峡が広い窓から一望できるとてもすがすがしい温かな図書室です。会の方もサンタの帽子をかぶられ、ツリーを用意され雰囲気を作られていました。

まず、代表者の田丸氏の「クリスマスの鐘」の朗読から始まり、5人で「クリスマスツリーの12ヶ月」を朗読、クリスマスソングのバックミュージックで盛り上がりました。そして日本昔ばなし「はなたれ小僧さん」「おおみそかの火」の朗読でした。日本の昔話もどこかクリスマスに通じるところがあり、とても興味深かったです。素晴らしい朗読を聞くと心に残る！不思議な魅力です。

朗読会に参加された方は入院中の方をはじめ、朗読に興味があって参加された方等約20名。特に行動が制限されていらっしゃる入院中の方にとっては、心安らく癒しのひとときとなったのではないのでしょうか。朗読の力を改めて感じながら、会の方の益々の活躍を期待した日でした。

状況写真



関門海峡が一望



代表の田丸氏



日本昔ばなしの朗読



病院のボランティアの方



参加者にプレゼント

取材先	おせっかい集団with		
企画名	おしゃべりカフェ・ワークショップ		
備考			
取材日	平成30年1月19日(金)天候[晴れ] [13:00 ~ 14:30]	取材地	彦島公民館

レポート

現役引退後、昨年4月より活動を始めた、子育ての悩み相談や支援をパワー全開です、おせっかいおばさん達の団体『おせっかい集団with』。それぞれ保育士や特別支援学校の教師を経て、臨床発達心理士やペアレントトレーナー・ペアレントメンターの資格を持ち、子ども相談ホットライン、カウンセリングアドバイザーとして活躍してきました。

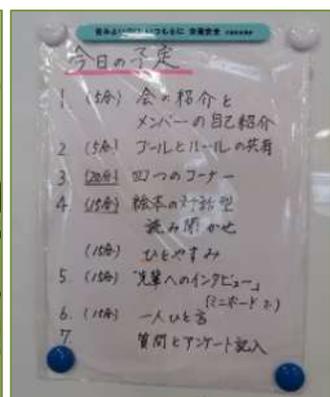
取材当日、「図書館でチラシを見て、行ってみたいとっていて…。今日やっと来れましたあ～。」とママたちが来ました。まず、名札に名前を書き(ニックネームでもよい)自己紹介。次に、まちがいも失敗もOK・情報は外には漏らさない、などのルールと子育てのヒントや仲間を見つけます、などのゴールを共有し、その後、好きな食べ物・私の子育て・毎日の充実度・悩みや困りごと、などの4つのテーマについてそれぞれがミニボードに書きました。このミニボードをもとに、おしゃべり開始！団体の皆さんも自分の育児の失敗談などを語り、涙あり笑いありの時間でした。話の中で、育児のヒントやそれぞれ専門家としての的確なアドバイスも含まれており、おしゃべりという緊張のない語らいは、相談者の本音を引き出すのにとっても有効であることに気づかされました。最後に“絵本の対話型読み聞かせ”があり、いつも子どもに絵本を読んでいるママたちは、「わあ～、大人に絵本を読んでもらうことないー！」と楽しそうに聞いていました。絵本を読んで聞かせるのは、聞くのが楽しくなるという学びの一步。そこから人の話を聞くようになり、自分で読むようにもなる。“学ぶ”につながっていくのだと話されました。

おしゃべりカフェは、毎月第3金曜日に彦島公民館で開催され、参加費は100円です。個別指導も行っています。子育ては、悩みや心配ごとが多くあり、不安ばかりです。自分1人で何もかも抱え込まず、おしゃべりをしに行かれてみませんか。きっと、ヒントが見つかりますよ。

状況写真



親の会話や対応力を変えることによって子どもが変わる。お母さんの子育てスキルアップで家族に笑顔を！



- 今日の予定
- (15分) 会の紹介とメンバーの自己紹介
 - (5分) フォールとルールのお話
 - (20分) 四つのコーナー
 - (15分) 絵本の対話型読み聞かせ
 - (15分) ひまわり
 - (15分) 先輩へのインタビュー (ミニボード)
 - (15分) 一人ひとりの質問とアンケート記入

取材先	下関手話青い鳥の会		
企画名	市民手話講習会		
備考	赤い羽根共同募金助成事業		
取材日	平成30年1月22日(月)天候[雨] [10:00 ~ 11:30]	取材地	下関市社会福祉センター

レポート

手話を学びながら聴覚障害者との相互理解を深めるとともに、一般市民に啓発することを目的とした団体の『下関手話青い鳥の会』。現在会員は128名です。この度、赤い羽根共同募金助成事業として、一般市民を対象とした「市民手話講習会」が開催されました。今回で35回目を迎えた講習会。参加申込みは、30代から70代までの男女25名。まさに老若男女の集まりとなりました。

まず、言語の学習には欠かせないあいさつを学びました。例えば「おはようございます。」は右こぶしをこめかみに当て、素早く下におろします。こぶしが枕を表し、起床を意味するそうです。次に、食べ物や生き物など身近なものを表現したり、質問やお願いなどの気持ちを伝える練習をしました。優しく笑顔が素敵な宇根先生と明るくユーモラスな梶代表が、楽しい手話の世界に導いてくれました。初心者向けの講座ですが、みなさんとても上手で、楽しみながら積極的に表現していました。最後は、次回行う自己紹介のために参加者の名前を表し方を教えてもらいました。

今年は何か新しいことを学びたい!と思っているみなさん、手話はいかがですか?手の動きだけでなく、身振りを交え表情豊かに表現される手話は、空間そのものを言葉に変えてしまう魅力あふれる言葉です。気軽に学べて、しかもボランティア活動にもつなげることができて、とてもおすすめですよ。

状況写真



両手で、カニを表現しています



お茶とコーヒー、どっちがいい?



無理なお願いをされて困ったな~



漢字の井を表しています



赤い羽根共同募金助成事業
市民手話講習会
手話が初めての方を対象とした講習会です。
手の動きだけでなく、身振りを交え表情豊かに表現される手話は、空間そのものを言葉に変えてしまう魅力あふれる「ことば」です。
一緒に学んでみませんか。



漢字の中を表しています



下関市聴覚障害者福祉協会
会長 北本 秀樹 氏



梶代表



宇根先生



取材先	多世代交流ほほえみサロン		
企画名備考	多世代交流ほほえみサロン・下関ツインズファミリー創立20周年記念式典		
取材日	平成30年2月17日(土)天候[晴れ] [10:00~12:00]	取材地	しものせき環境みらい館 3階 第1研修室

『多世代交流ほほえみサロン』は平成10年、シニア世代と子育て世代のふれあい交流と、ツインズファミリー（多胎児）を支援することを目的として結成されました。毎月定期的に、童謡や手遊び歌で楽しんだり、絵本の読み聞かせなどを行うサロンの開催、グランマの絵本の勉強会、なつかしの歌を歌う会など積極的に活動をしています。

会場には子どもたちの遊び場が設けられており、和やかな雰囲気の中開催されました。代表挨拶、来賓祝辞の後、幼いころ双子の姉と共に参加していた方の話があり、当時遊んでいたおもちゃや手遊びが、そのまま懐かしい気持ちだったこと、大人になった今、たくさんの人に愛され育ててもらっていたことに熱い思いを感じていることなどを話されました。

講演では、『親と子の笑顔が輝く街に』をテーマに、かねはら小児科理事長 金原洋治先生の話がありました。環境と遺伝子の話から始まり、「だいじょうぶという言葉は子どもの心の安全基地になる。親と子が、この町に生まれ・育ち、この町で子育てができて良かった、と思えるような地域をつくるためには、地域の人たちと一緒に考え活動していくことだ。」と話されました。最後に、会員の方による独唱や大坪子育て家庭支援センターによる、手遊び歌やパネルシアターがあり、賑やかに終了しました。

幼いころ、ほほえみサロンに参加したみなさんは、たくさんの感謝の思いを持っていると思います。ご苦勞も多くあるでしょうが、25周年、30周年へと継続していただきたいと願います。

レポート



状況写真

会員や大坪支援センターによる歌やパネルシアター

取材先	あいれんか（愛憐花）		
企画名	春の交通安全キャンペーン		
備考			
取材日	平成30年3月23日(金)天候[晴れ] [15:00 ~ 15:40]	取材地	海峽ゆめ広場

レポート

あいれんか（愛憐花）は昨年立ち上げられた団体で、“笑顔”をテーマに障がいと難病への理解を求めて健康な人も様々な病気の人にも痛みを理解し合える社会、地域づくりをめざし活動をされています。

代表者の上田氏ご自身も難病と闘いながら生活をされ、車椅子での移動では日々「危ない！」「もっと車椅子に注意をして！」と思われることが多いそうです。特に、歩きスマホやイヤホンを使用している方は車椅子や歩行者の存在さえも気付かず、危険と思われることがよくあるそうです。「春の交通安全キャンペーン」はそのような理由から企画されました。

パフォーマーの「Chaco&ずん子」はマルチタレントのコンビです。交通安全の啓蒙活動でも活躍され、歌詞の中にお地蔵さんが出てくるのがきっかけで地蔵画家でもある上田氏がこの企画に協力を依頼され今回のキャンペーンを主催されました。

取材の日は3日間のキャンペーンの初日、翌日からは豊北・北九州市でも開催されます。彼女たちの楽しい歌・踊り・コントで会場は盛り上がり、特に交通安全の歌「自転車だって安全運転」は振付があり、みんなで踊り楽しく時間が過ぎていきました。

代表の上田氏は通行人に声をかけて、たくさんの方にキャンペーンの参加を呼びかけていました。新聞に連載された上田氏の記事を読まれてその言葉に感動したという方もいらっしゃいました。

障がい者本人でなければ分からない不自由さや不便さがたくさんあると想像します。特に屋外での移動時は想像に及ばないです。このキャンペーンであいれんか（愛憐花）のめざす他人を理解し、支え合える社会に一步でも近づけたらと願いました。

状況写真



Chaco&ずん子



代表の上田氏



交通安全のお地蔵さん



歌・踊り・コントのパフォーマンス
ステキな笑顔で「ハイチーズ！」→



取材先	国際ソロプチミスト下関		
企画名	シンデレラドリーム 2018		
備考	後援 NPO法人スペシャルオリンピックス日本・山口		
取材日	平成30年3月25日(日)天候[晴れ] [9:00~15:00]	取材地	マリアージュ下関

レポート

桜の開花宣言後の3月最後の日曜日、晴れやかな会場で第1部のドレスファッションショーが開催されました。「70年前はドレスなんてなかったから...」と嬉しそうに記念撮影しているおばあさまや障がいのある方など、みなさんステージの上で緊張されながらも、キラキラ輝いていました。いくつになってもドレスは女性の憧れ。参加された皆さんは、生涯の思い出になったと思います。ヘアメイクや着付け担当のボランティア、エスコート系の早稲高校の学生ボランティアなど、皆さんの協力で行われました。

第2部は始めに、スペシャルオリンピックスのDVD上映とNPO法人スペシャルオリンピックス日本・山口の松村理事長からお話がありました。競技会は特殊なルールで、勝つことが目標ではなく、アスリートが自己の最善を尽くす事が目的で、すべての人にチャンスがある全員表彰であること、10月に日本大会があり、来年3月中東で開催されること、会員を募っていることなどの話がありました。

次に、講演会『共生社会の実現をめざして』がありました。講師は金子淳子先生（金子小児科院長）で、「みんなや食堂（子ども食堂）」の取り組みについて話されました。貧困について、貧は低所得、困は困りごとを意味し、すべての子どもたちが支援の対象である、みんなや食堂は子どもを中心とした多世代が集う場所であり、医療者はサインを受け止める大切な窓口になる場所となっている、そして食堂の運営を始めて気づいたことは、利用者の感謝の気持ちで元気をもらい、支援する側の自分たちもまた支援される立場である、と話されました。最後にパネルディスカッションがあり、終了しました。

今回のように団体の協働、若い世代の市民ボランティアも交えた事業を行うことで、次世代が市民活動に興味を持ち、運営・参加へと繋がっていくきっかけづくりになったと思います。

状況写真



平成 2 9 年度
市民と行政・市民と市民の
パートナーシップ年次報告の評価について
(答 申)

平成30年11月20日

下関市長 前田 晋太郎 様

下関市市民協働参画審議会
会長 鷺尾 圭司

平成29年度市民と行政・市民と市民のパートナーシップ
年次報告の評価について（答申）

平成30年8月3日付け下ま第1109号にて諮問のありました、平成29年度市民と行政・市民と市民のパートナーシップ年次報告の評価について、当審議会は、それぞれの立場や経験を基に慎重に審議いたしましたので、下記のとおり答申いたします。

記

年次報告に対して様々な角度から検討を加えましたが、総じて事業消化に走っている感が否めないもので、下関市としての市民協働参画をどのように推進していくのかという姿勢が問われる状況がいくつか見受けられた。今後は市民と市が協働する意味を再点検して、積極的な参画を得られる計画や行動、実践事例の交流など、以下に掲げる諸課題への対応を進める必要があると評価します。

- 1 年次報告に掲載されている統計資料（図及び表）については、グラフ化され解りやすくはなっているものの、それぞれの施策がどのような意図で実施され、どのような反応・効果があったのか、市民協働参画に関する施策はどのように進展しつつあるのかを市民に解りやすく説明できるよう工夫されたい。また、第3次下関市市民活動促進基本計画に対応したものとなるよう報告書の構成についても配慮されたい。加えて、年次報告を評価するための指標の策定についても検討されたい。
- 2 市民協働参画に関する実施事業数は減少しているものの、実施施策数は増加しており、市民参画に対する認識は、浸透してきているものと考えられる。また、事業実績については、市民協働参画の所管課だけでなく、庁内関係課所室に広く調査を行い、その調査結果を

集約し公表していることについては評価できるものの、実施件数と併せてその分析についても明示できないか検討されたい。

- 3 情報の提供と共有を行った施策数のここ5年間の推移は、一定の水準を維持しながらも、前年度と比べると増加している。更なるインターネットを活用した情報発信に努めるとともに、インターネットを利用しない年齢層にも配慮した方策も検討されたい。また、一方的な情報発信だけではなく、市民と行政とが連携・交流が図れる場づくりについても検討されたい。
- 4 施策の推進に関して、「パブリックコメント」の意味自体が解からない市民もいることから、「皆様のご意見を求めます。」等のサブタイトルを付すなど、市民の関心を引くような工夫にも努められたい。また、パブリックコメントの実施に際しては、市民に十分周知することはもとより、特にその施策に関わりが深い地域住民、市民団体、企業等に対しても、十分周知されるよう配慮されたい。加えて、当該施策の概要版等の資料を添付されるなどして、その内容が誰にでも理解できるよう配慮されたい。
- 5 下関市各附属機関における公募委員については、その比率を高めるとともに、公募委員を含まない附属機関においても、公募委員を含めることができないうか再度検討されたい。また、当該委員の構成は、男女比率及び年齢構成についても配慮されたい。
- 6 市民協働参画を支えるための「市民力」をどう強めていくかが課題である。市民活動を促進するための環境整備に努められたい。また、中間支援団体の役割も重要であることから、しものせき市民活動センターにおいては、その育成・支援の中核的な役割を期待したい。
- 7 巻末資料の市民活動取材票については、各団体の活動を客観的かつ詳細に知ることができ、また、市民活動団体の活動を促進する効果もあると思われる。資料として掲載することは評価できる。今後とも、市民活動団体への取材及び情報提供に努められたい。

以上

平成30年11月作成

下関市 市民部 まちづくり政策課

〒750-8521 山口県下関市南部町1番1号

直通 083 - 231 - 1830

FAX 083 - 231 - 1809

E-mail skshimin@city.shimonoseki.yamaguchi.jp